

(5) 東 海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

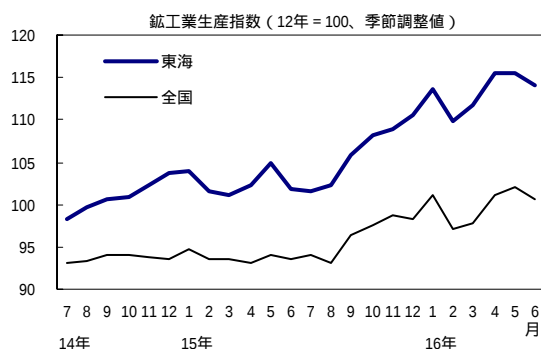
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 16 年 5 月）	今回（平成 16 年 8 月）	
鉱工業生産	増加	堅調に増加	↑
住宅建設	おおむね横ばい	減少	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に増加している。

輸送機械は、完成車の国内向けは伸び悩みがみられるものの、輸出向けが好調なことから高水準で推移し、自動車部品も引き続き好調に推移していることから、増加している。一般機械は、国内の設備投資回復を背景に、金属工作機械が堅調に推移したことなどから、増加している。なお、繊維機械は主な輸出先である中国向けが金融引き締め等により振るわず、横ばいとなっている。電気機械は、制御機器が自動車関連に加えて液晶・半導体関連向けに伸びており、増加している。窯業・土石は、ガラス・同製品がビル向けを中心に低調に推移したことなどから、やや減少に転じている。化学は、自動車向けが高水準で推移したものの、一部生産設備の整備等により、減少に転じている。



（備考）平成 16 年 6 月の東海は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

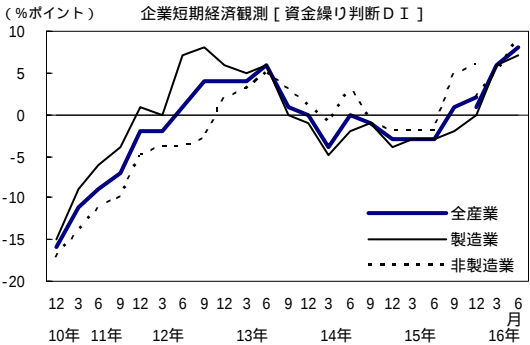
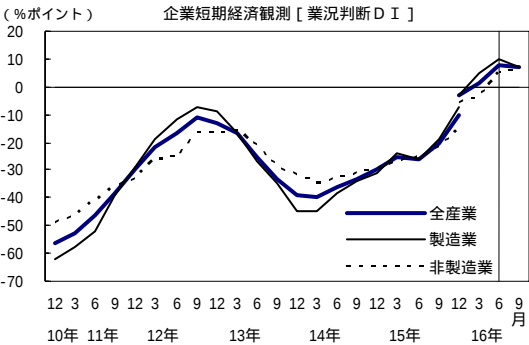
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
輸送機械	33.9	1.2	1.8	2.9	13.2
一般機械	11.3	0.0	4.0	4.7	▲0.8
電気機械	7.3	4.2	6.3	8.5	▲19.1
窯業・土石	6.1	0.3	▲0.4	1.5	▲1.3
化学	5.4	3.5	▲3.8	▲3.2	▲5.3
鉱工業	100.0	2.3	3.0	3.5	0.1

（備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

2. 4～6 月期は速報値。

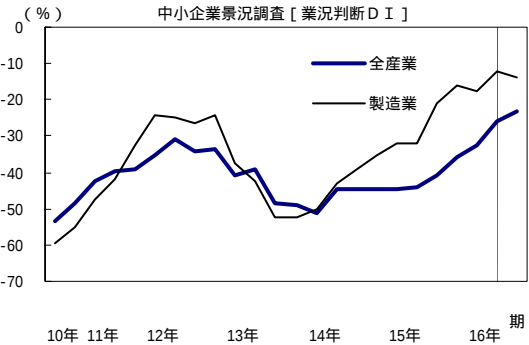
3. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年9月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。
中部地区のD I。

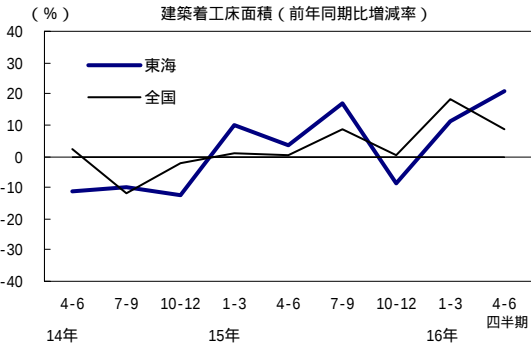
景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]
「5、6月は受注量が3割程度アップしたため納期に追われたが、最近は3か月前の状態に戻っている (電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)		
	15年度実績	16年度計画
全産業	▲3.4 [3.6]	9.3 [0.5]
製造業	0.4 [6.5]	14.8 [4.7]
非製造業	▲6.8 [1.1]	4.0 [▲3.5]

(備考) []は前回 (3月) 調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

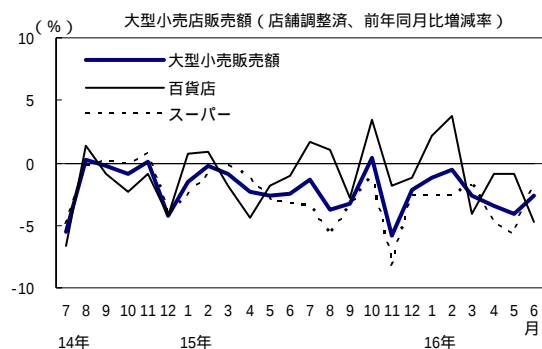
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、飲食料品が2か月ぶりに前年を上回ったものの、婦人・子供服が伸び悩んだことから、前年を下回った。5月は、週末の天候不順の影響から前年を下回った。6月は、下旬の台風やクリアランスセール前の買い控えなどの影響により、夏物衣料品を中心に不振だったことから、4か月連続して前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、名古屋地区の7月の売上高は、前年同月比で0.9%減となっている。

スーパーは、期間を通じて衣料品が前年を下回り、6月に、飲食料品が3か月ぶりに前年を上回ったものの、全体としては19か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「雨が降らないため青果物は割高になっており、入荷量も少ないため売上は伸び悩んでいる(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

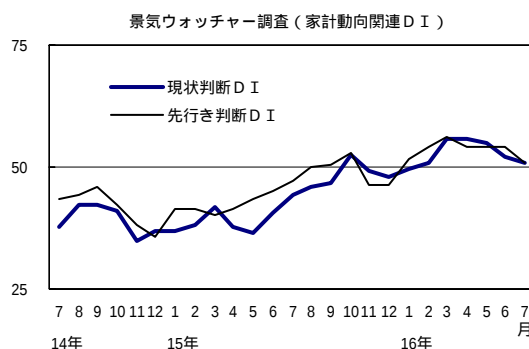
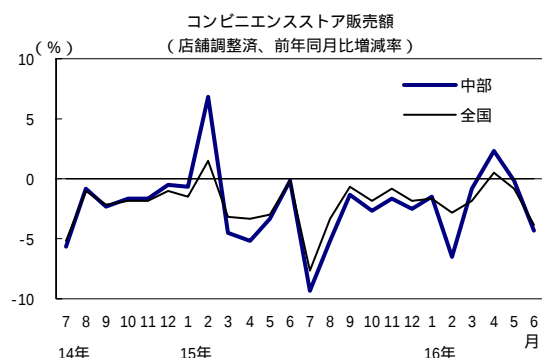


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月
大型小売店	▲2.7	▲2.5	▲1.5	▲3.4
百貨店	0.2	▲0.1	0.3	▲2.1
スーパー	▲4.3	▲4.0	▲2.4	▲4.1
コンビニ	▲5.4	▲2.3	▲3.0	▲0.8
景気ウォッチャー	45.7	49.9	52.1	54.2

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済、中部地区の値。

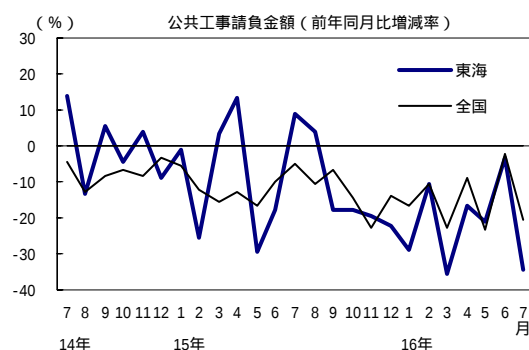
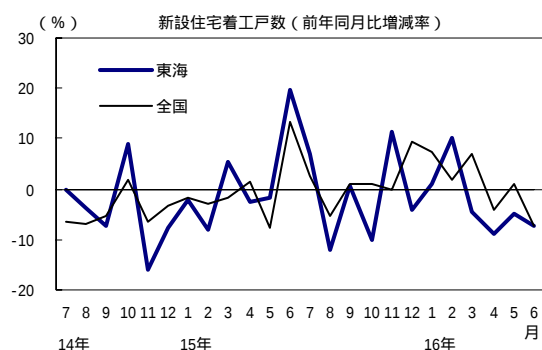
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

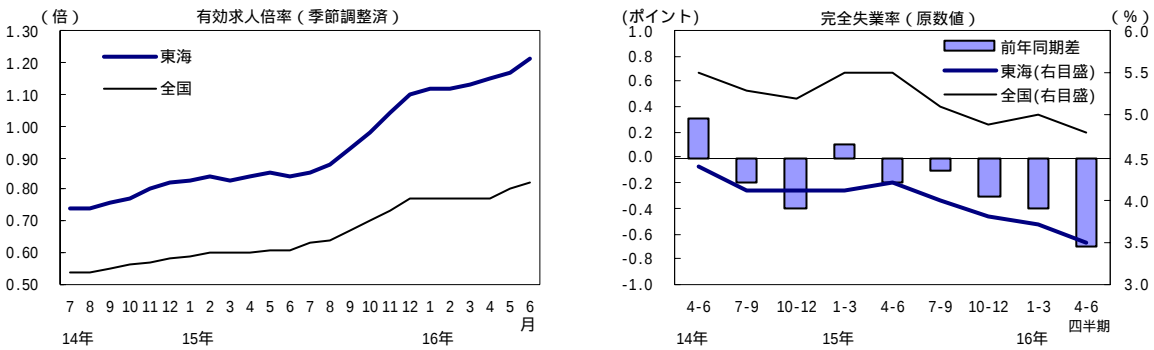
分譲が前年を上回ったものの、貸家を中心に前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は16年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

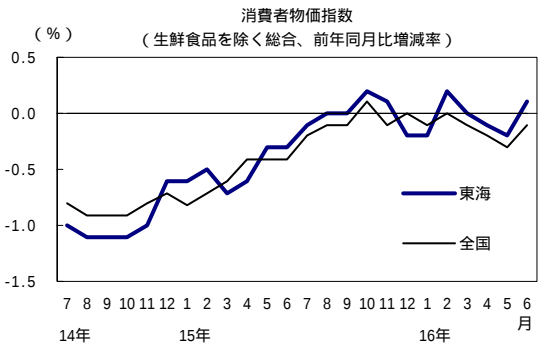
- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月調査）[雇用関連（現状判断）]
「来春卒業予定の高卒求人は、7月26日現在、求人数で前年度比44.9%、求人数で55.2%増加している（職業安定所）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「ここ3か月間、有効求人倍率は1.04～1.05倍の範囲で推移している（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答もみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

	(件、億円、%)				
	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月	16年7月
倒産件数	350	336	336	283	97
(前年比)	▲25.7	▲19.4	▲25.8	▲30.5	▲23.6
負債総額	1,605	4,126	1,400	879	317
(前年比)	▲65.7	225.6	▲12.8	▲20.4	▲58.6



- 景気ウォッチャー調査（7月調査）[合計DI（特徴的な判断理由）]
<現状>
・7月に入ってから来客数が前年以上に増加しており、予想以上である。また、客との会話でもボーナスカットという言葉が減少してきている（乗用車販売店）。
<先行き>
・今月の好調は天候要因で季節商材に大きく引っ張られているだけであり、天候要因を超える力強さはない。また、猛暑の年は暖冬という傾向もあり、秋冬商材は不安視している（百貨店）。

